

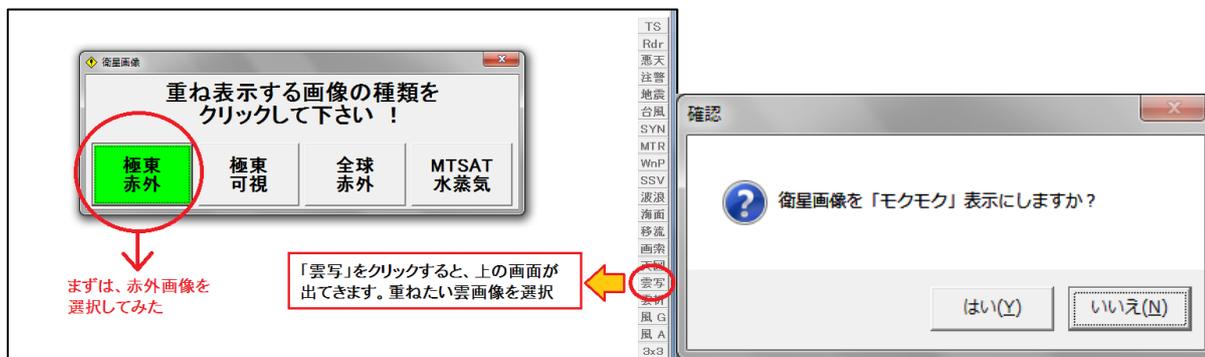
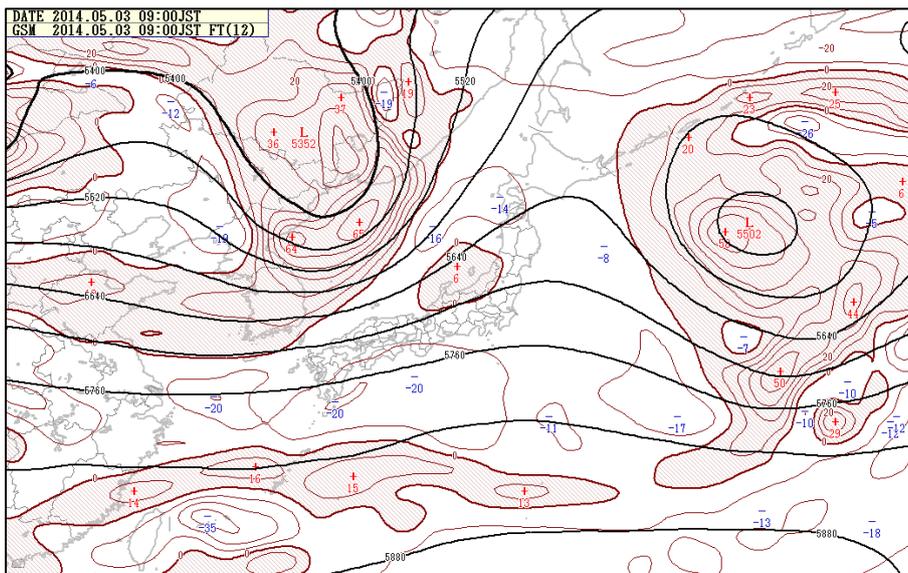
<明日は曇るのか？上空の流れから妄想する手段の一つ>

どんな天気図の時に、どんな雲が、どんな所に分布しているのか？天気図と雲を重ねて、いろいろと妄想をふくらます方法。

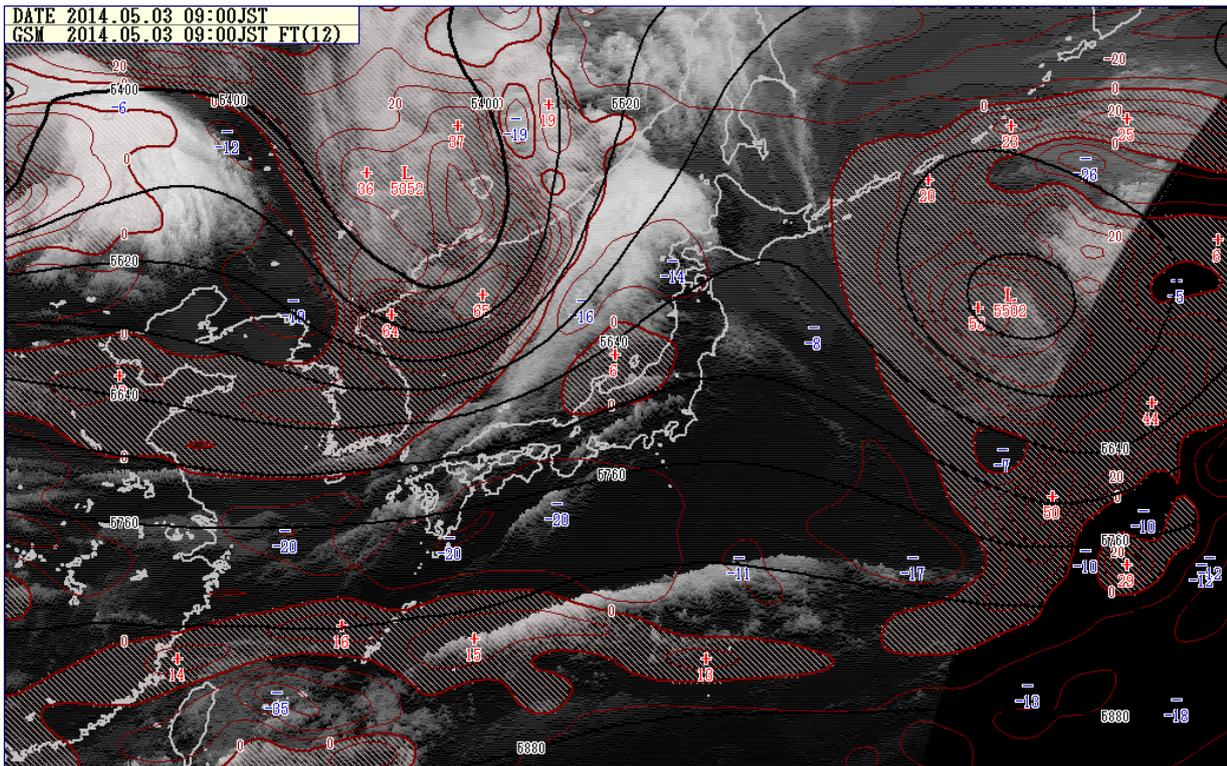
①500hPa の高度・渦度分布図と雲域の関係を見てみます。表示要素選択から、500hPa の高度と渦度を選択します。



②上空 500hPa の流れが分かります。これに、雲を重ねます。

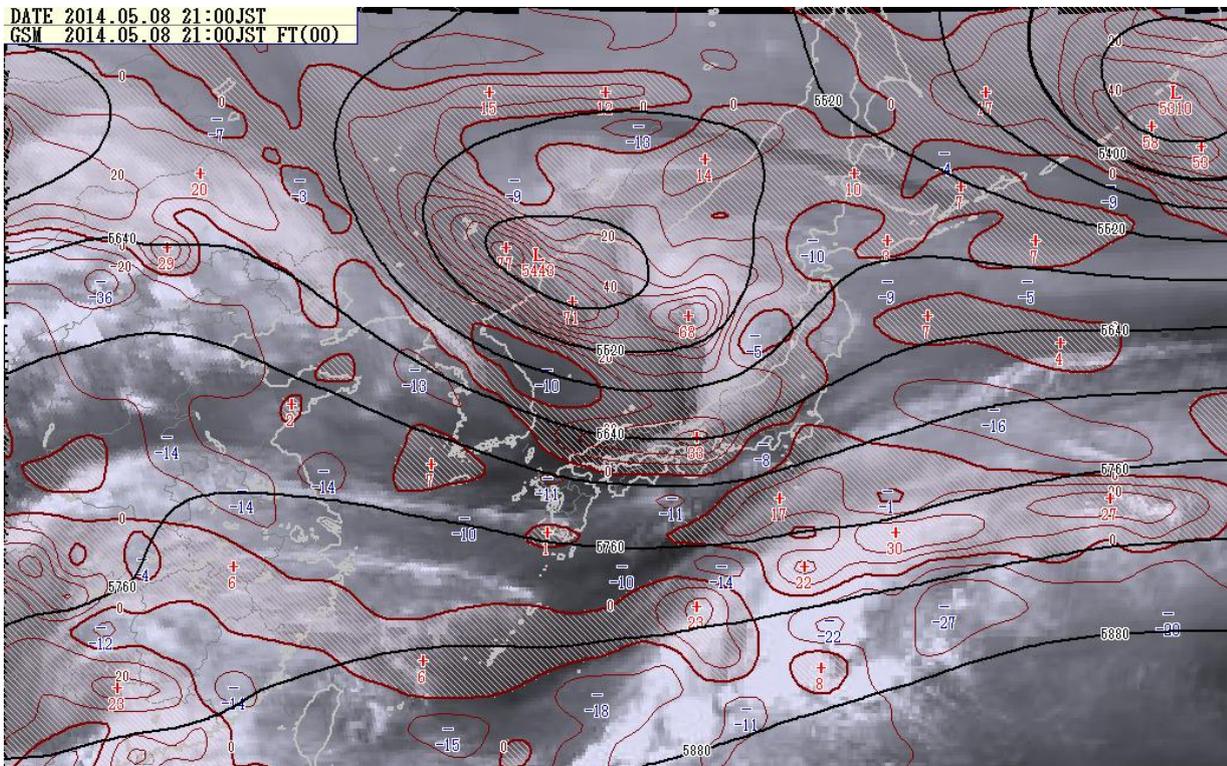


まずは、赤外面像を重ねてみます。「モクモク」表示にしますか？と聞かれます。お好みですが、モクモクにしてみます。↓



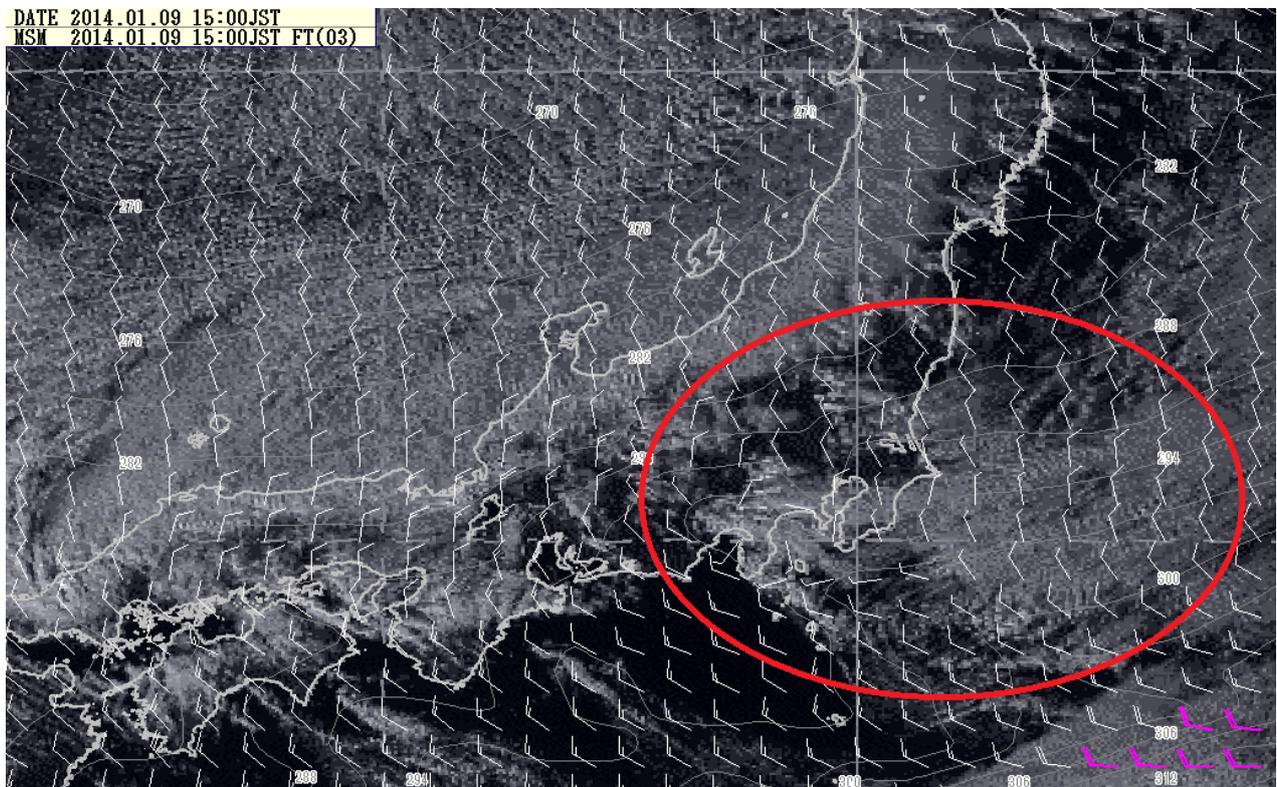
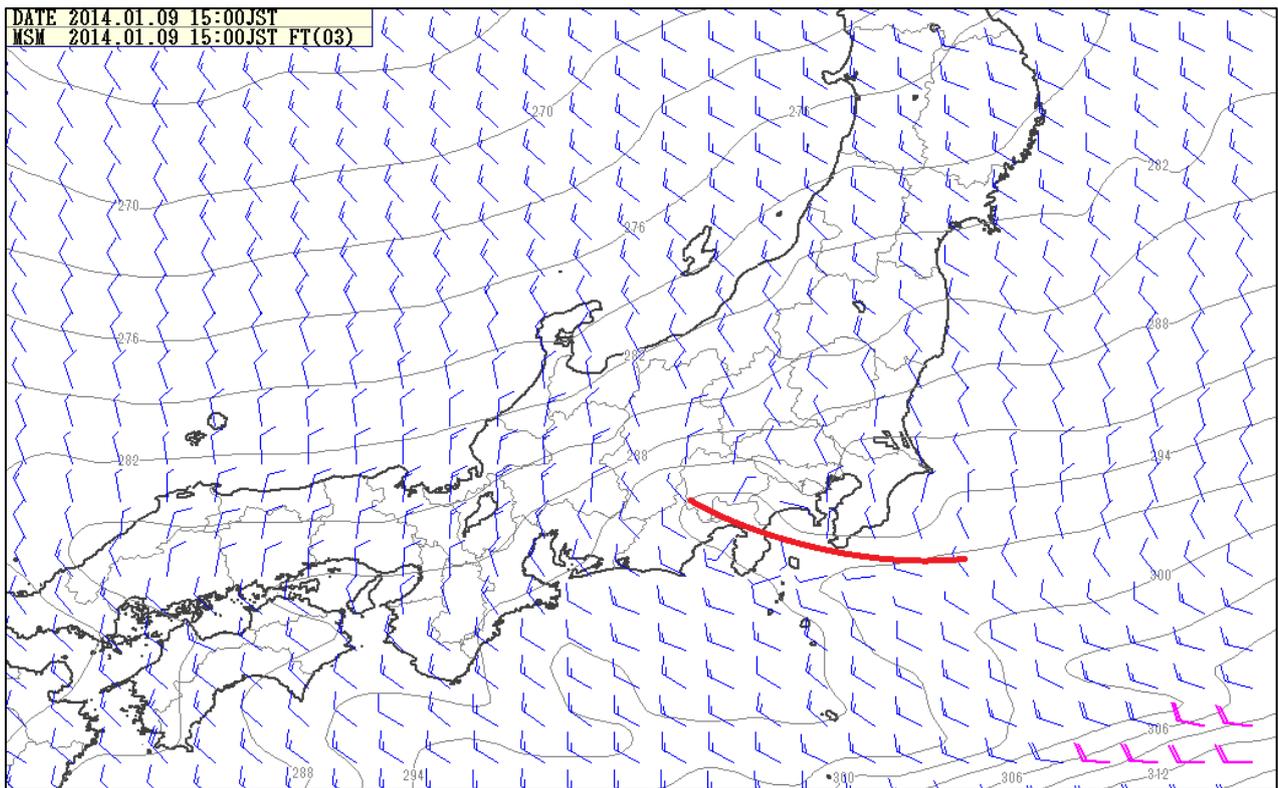
トラフの前面の雲域やジェット気流の位置、南海上の前線帯と上空の流れとの関係がよく分かります。これを基に予想図を見て行けば、雲の広がり方、時間帯が、天気図を合わせて予想を立てられます。

③ちょっと気になる寒冷渦が発達してくるとき…水蒸気画像と重ねてみると。



正温度の極大値と、暗域の分布の関係が分かります。これを基に予想図を見れば、どのタイミングで暗域が入って対流不安定になるか、分かります。

④850hPa の相当温位・風の分布図と、可視画像を重ねます。関東南岸にシアがあります。



シアの北側に分布する雲域が分かります。これを基に予想図を見ていけば、このシアが解消するような、場の変化や風の変化があるまで、雲が取れない可能性が考えられます。